

令和8年度 学校評価目標

本年度の 重点目標	① それぞれの生徒に応じた確かな学力と逞しく生きる人間力の育成 ② 3つの目標「進路希望の実現」「授業規律の更なる改善」「道徳性・社会性の醸成」 ③ 教職員の心身の健康と充実した教育活動の両立		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
活動内容の共有と地域への発信 教職員の健康管理 (管理職)	・校内での活動の共有と地域への発信 ・適切な業務分担による健康管理	・全日制・附属中学校と連携しながら学校の活動を地域に発信していく。 ・業務及び行事の精査及び改善により、勤務時間を適正化する。	・生徒それぞれが得意な分野を生きながら、校内での連携を深め、その活動を地域に発信する。 ・勤務時間を適正化することで、職員の健康を維持しながら生徒へのきめ細やかな指導を行う。
地域、ハローワークやポートステーション等の諸機関、企業、家庭との連携 進路指導の実践 (総務部)	生徒の進路希望の実現	進路ガイダンス、企業説明会、面談などにより生徒の進路意識を向上させる。 外部組織との連携により、就職指導を充実させる。地元企業との連携を密にし、就職先での定着を図る。	生徒一人一人の能力や適性、進路意識を十分に把握し、将来を見据えた情報提供をし、自ら考え力をつけさせる。 公共職業安定所や関係機関等との綿密な連携により、充実した就職指導を行う。外部講師を積極的に活用し、講話の機会を設けて生徒の意識向上を図る。
学習指導 (教務部)	総合的な探究の時間の更なる充実	・あらゆる問題と自己との関わりから問いを見出し課題解決を図る。 ・キャリア形成に向けた取組	探究の見方・考え方を働かせ、教科横断的・総合的な学習となるように留意する。
	教科指導の更なる充実	授業規律を確立し、学習に取り組む姿勢を養い、基礎学力を定着させる。 指導と評価を一体化させ、切れ目のない教科指導へつなげる。	生徒が自発的に「授業に取り組もう」と思える授業の展開方法を常に模索する。 特中中学校3年との接続を意識し、入学年内の評価基準を定める。観点別評価をブラッシュアップさせ、よりよい指導へつなげる。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	遅刻・欠席者への指導を充実させる。	安易な欠席や遅刻をなくす。特に登校時の遅刻をなくすため、日常的に働きかけを行い、規則的な生活習慣を確立させる。
	規律を重んじる態度の育成	自分のみならず他者や集団に意識を向けさせる。	「どうあるべきか？」を生徒に問いかけ、生徒自ら答えを出し、正しい行動につなげる。
生徒会活動	交通安全指導の徹底	交通安全、特に夜間の登下校時の安全意識を高める。	登下校時の立ち番などを通して、交通ルールへの遵守を訴える。また夜間の登下校には特に留意させる。
	学校行事の活性化	体育大会・文化的行事等への意欲的な参加を喚起する。	学校行事を、生徒会執行部を中心に運営させることで生徒の主体的な活動を促す。
保健厚生 (生徒指導部)	相談活動の充実	健康観察、面談等を通して生徒の実態や変化をつかむ。	生徒に関する情報を共有し、SC・SSWとも連携して生徒の心の安定を図る。
	美化活動及び食育の推進	給食献立掲示板を生徒に描かせることを通じ、食への理解を深める。食堂の清掃を実施する。	給食のオリエンテーションで栄養・健康の大切さを理解させるとともに、食文化としてのマナー指導も充実させる。
	コミュニケーション能力の向上	多様な生徒との触れ合いを通し、他者理解を深め自尊感情やコミュニケーション能力を高める。	学年の枠を越え、グループワークを実施する。良好な人間関係を構築することが不得手である生徒の対人関係のスキルアップをめざす。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	・確かな学力と逞しく生きる人間力の育成について 社会に出て活躍する力を付けるための様々な方策が進められているか。 ・3つの目標の実現について 個々の目標にそった具体的な方策の実現が図られているか。		

令和7年度 学校評価

本年度の 重点目標	① 確かな学力と逞しく生きる人間力の育成 ④ 3つの目標「進路希望の実現」「授業規律の更なる改善」「道徳性・社会性の醸成」 ⑤ 教職員の心身の健康と充実した教育活動の両立		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題【 】は自己評価
地域との連携 教職員の健康管理 (管理職)	・地域への情報発信と共有 ・適切な勤務時間による健康被害の防止	・各種メディアへの情報発信及び近隣中学校との情報の共有をする。 ・職員の仕事内容の精査、改善及び最適な分担により勤務時間を適正化する。	【A】新聞や町内報の広報誌へ情報提供を行うだけでなく、近隣の中学校と密に情報共有を行うことができた。また、仕事内容の精査・改善および適切な分担により、勤務時間外の業務を減らすことができた。
地域、ハローワークやポータルサイト等の諸機関、企業、家庭との連携 進路指導の実践 (総務部)	生徒の進路希望の実現	進路ガイダンス、企業説明会、面談などにより生徒の進路意識を向上させる。 外部組織との連携により、就職指導を充実させる。地元企業との連携を密にし、生徒の定着を図る。	【B】進路情報の掲示・進路冊子の配布、一般職業適性検査の実施などを通して自分の志向を自覚するよう試みた。 【B】ハローワーク職員や専門学校講師を招いて講話を実施し、生徒の啓発に努めた。進路意識の定着のために講話の回数などを増やしていきたい。
学習指導 (教務部)	各種書類作成における負担軽減 教科指導の充実	スクールエンジンを活用し、各種書類・調書作成の負担を軽減する。 授業規律を確立し、学習に取り組む姿勢を養い、基礎学力を定着させる。 指導と評価を一体化させ、切れ目のない教科指導へつなげる。	【B】特に教務・進路・保健関係においてうまく活用できた。 【B】生徒が自発的に「授業に取り組もう」と思える授業の展開方法を常に模索していく。 【B】特に中学校3年との接続を意識し、入学年度に評価基準を定める。観点別評価をブラッシュアップさせ、よりよい指導へつなげる。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	遅刻・欠席者への指導を充実させる。	【B】欠席・遅刻・早退の多い生徒に個別に指導を行った。
生徒会活動	交通安全指導の徹底	交通安全、特に夜間の登下校時の安全意識を高める。	【A】登下校時校門付近で立ち番指導を行い、生徒が安全に登校できるよう指導を行った。全校集会や交通安全教室にて講話を行った。
生徒会活動	学校行事の活性化	体育大会・文化的行事等への意欲的な参加を喚起する。	【B】意欲的に参加する生徒は一定数いたが、それが生徒会全体の主体となる活動へと広がるには至らなかった。
保健厚生 (生徒指導部)	相談活動の充実	健康観察、面談等を通して生徒の実態や変化をつかむ。	【A】SCと緊密に情報交換を行い、生徒のメンタル面の問題に向き合うことができた。
保健厚生 (生徒指導部)	美化活動及び食育の推進	給食献立掲示板を生徒に描かせることを通じ、食への理解を深める。食堂の清掃を実施する。	【A】メニューを確認しながら絵を描くことにより、生徒の栄養への関心を高められた。食堂の清掃は通常実施に加え学期末にも実施した。
保健厚生 (生徒指導部)	コミュニケーション能力の向上	多様な生徒とのふれ合いをとおり、他者理解を深め自尊感情やコミュニケーション能力を高める。	【A】グループワークで、チーム毎に課題を取り組み、課題を解決することにより、他者理解を深め自尊感情やコミュニケーション能力を高めることができた。
総合評価	「確かな学力と逞しく生きる人間力の育成」を目標に、生徒一人ひとりの特性や目標に応じた学習面・生活面での支援を充実させた。日々の面談や専門家との連携を通して、生徒の変化を早期に把握し、安心して学校生活を送れる環境づくりに努めた。授業規律の改善や道徳性・社会性の育成にも継続して取り組み、学習環境の向上に寄与した。また、進路指導においても個々の希望を丁寧に確認し、就職・進学の方で多くの生徒が望む進路を実現することができた。さらに、業務の見直しを進めたことで、教職員の心身の健康を保ちながら、生徒への手厚い支援と質の高い教育活動を両立することができた。		